

プラットフォーム事業成長戦略

2011年2月9日

プラットフォームビジネスユニット

執行役員常務 山元 正人

人と地球にやさしい情報社会を
イノベーションで実現する
グローバルリーディングカンパニー

NECグループビジョン2017

■ 1 . NECプラットフォーム事業概要

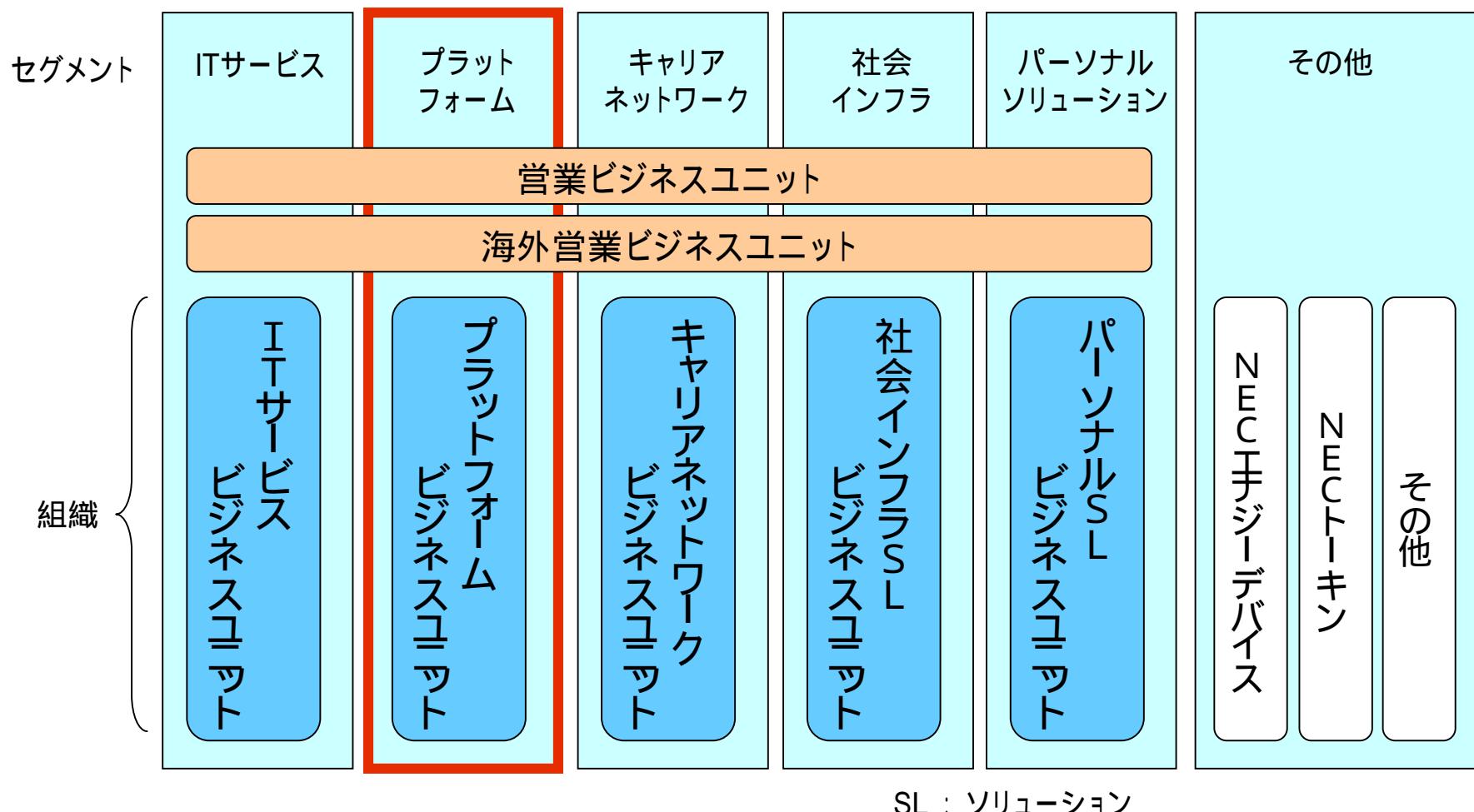
■ 2 . 市場動向と事業機会

■ 3 . プラットフォーム事業成長戦略

■ 4 . V2012達成に向けて

NECにおけるプラットフォーム事業の位置づけ

国内外の企業／官公庁のお客さまに対するITプラットフォーム／ネットワーク
製品事業を展開(製品販売)



NECのプラットフォーム事業領域

■ クラウドコンピューティングの中核となる**ITプラットフォーム製品群**
(ITハードウェア / ソフトウェア)、**ネットワーク製品群**を提供

< C&Cクラウド : NECの考えるクラウドコンピューティング像 >



主要製品群

■ ITプラットフォーム製品

< ITハードウェア製品 >

- ・サーバ
- ・ストレージ
- ・ATM
- ・POS 等



CLUSTER PRO
WebSAM
WebOTX

■ ネットワーク製品

- ・PBX / キーテレפון
- ・ユニファイド・コミュニケーション、等



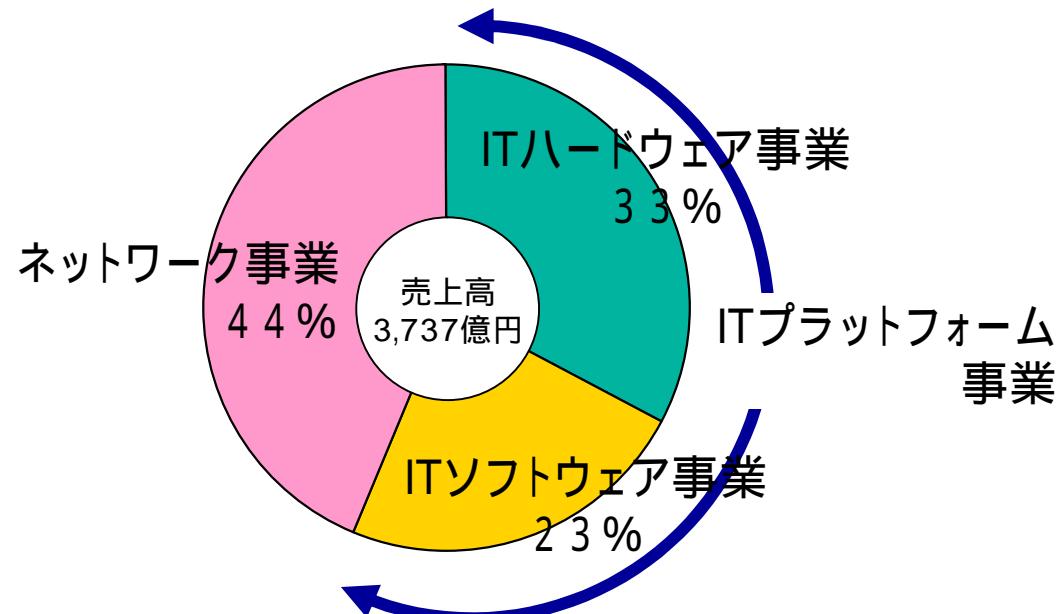
プラットフォーム事業 事業内容

■ 売上構成において、ITプラットフォーム（ITハードウェア、ITソフトウェア）とネットワークの各事業をバランスよく展開

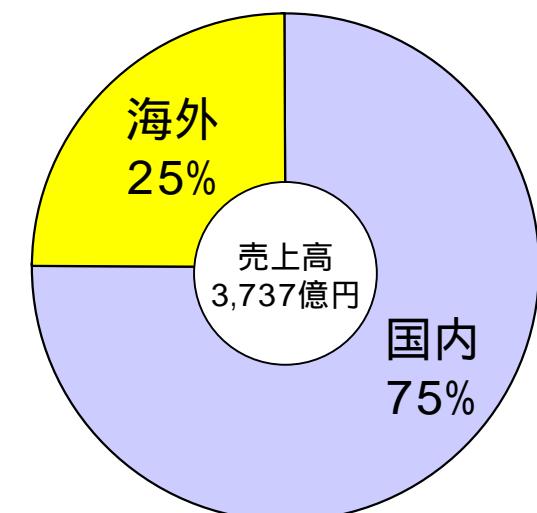
■ 海外売上比率 25%（2009年度）

- ネットワーク事業のみでは、50%が海外売上（米欧豪中心）
- ITプラットフォーム事業においては、現状国内中心

<事業領域別売上構成（2009年度）>

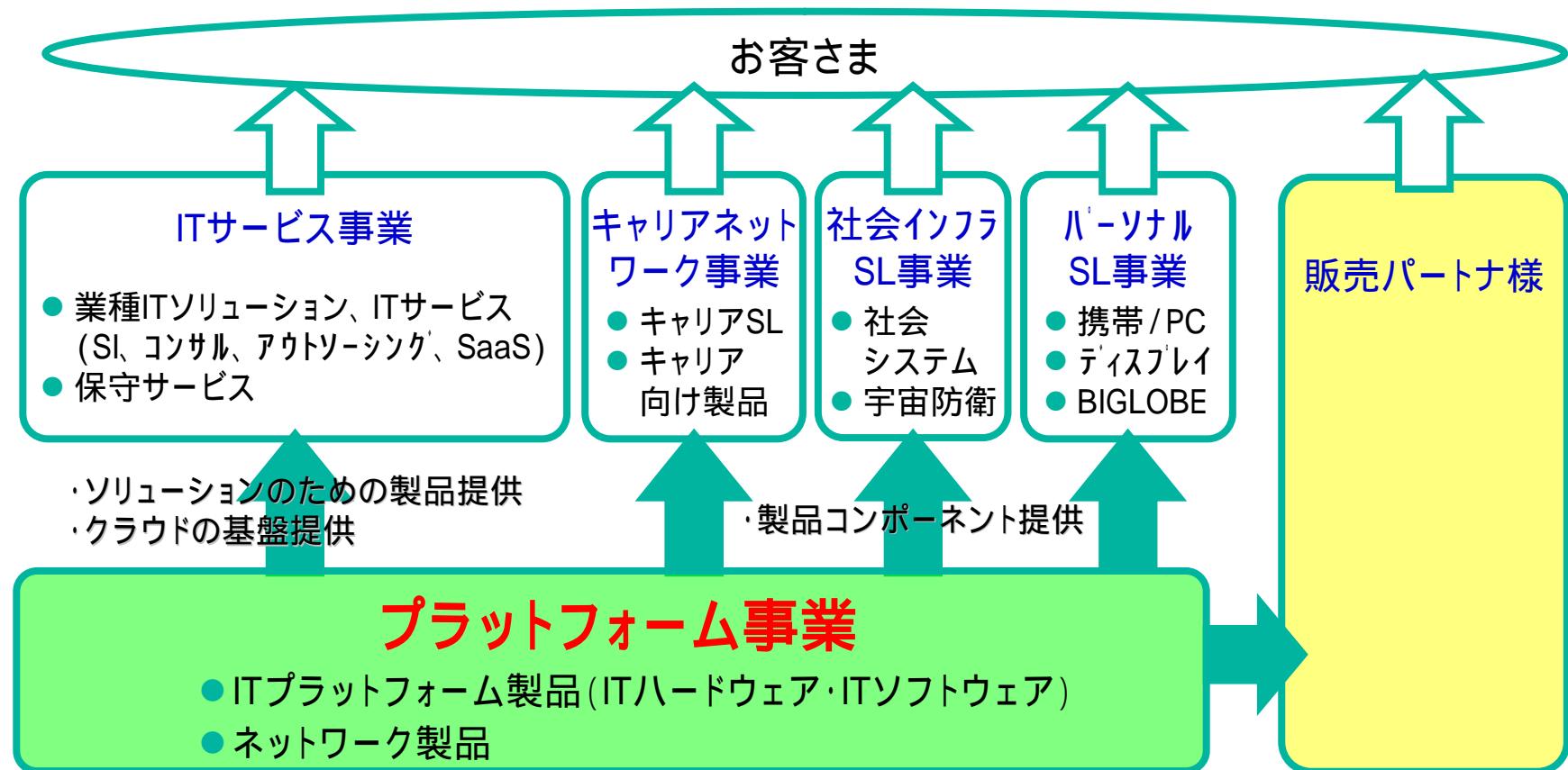


<地域別売上構成（2009年度）>



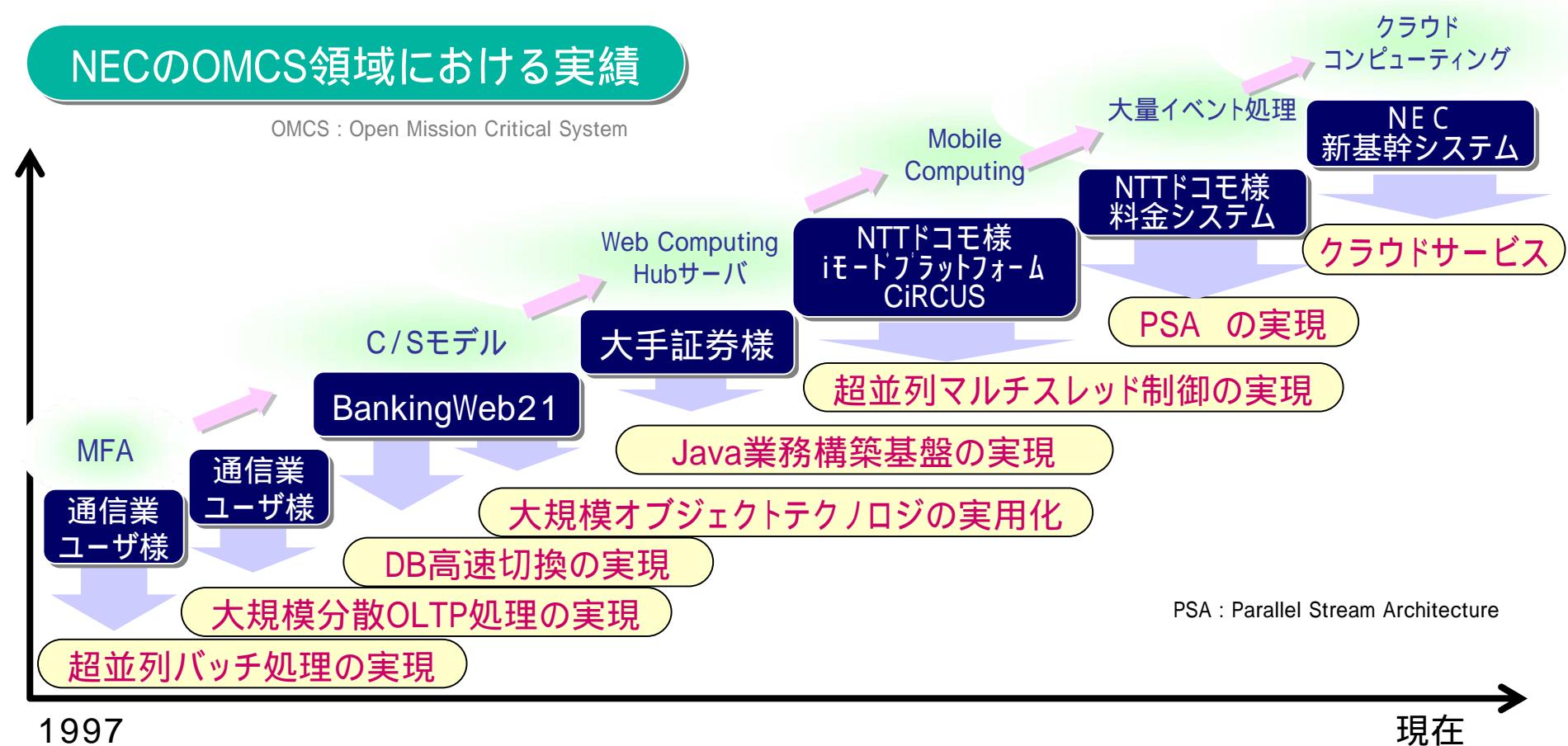
プラットフォーム事業と他事業との関係

- ITサービス事業でのソリューション / サービスを支える製品提供
- キャリアネットワーク事業、社会インフラソリューション事業、
パーソナルソリューション事業のための製品提供



(例) ITサービス事業と連携したオープンミッションクリティカルシステム

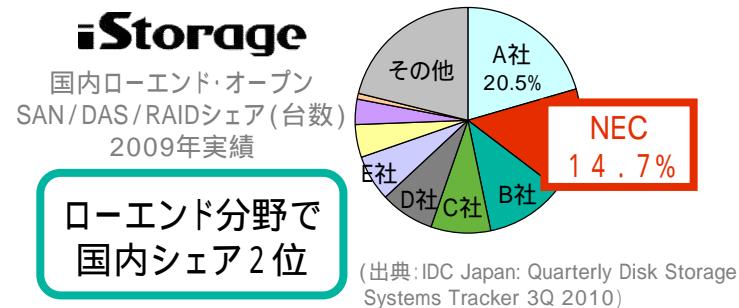
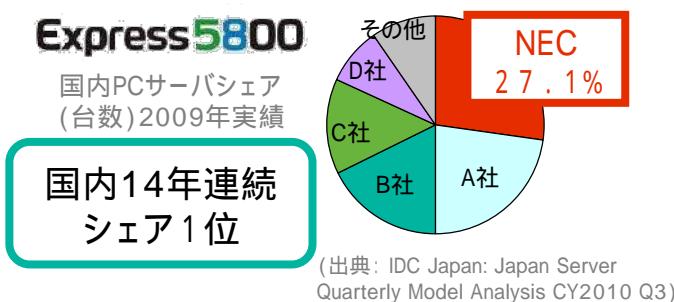
当社ITサービス事業がいち早く取り組んできたオープン製品によるミッションクリティカルシステム構築(OMCS)を製品技術で下支え
→ 自社/他社製品を組み合せた高信頼・高可用プラットフォームを実現



事業内容 – ITプラットフォーム事業 (ITハードウェア製品)

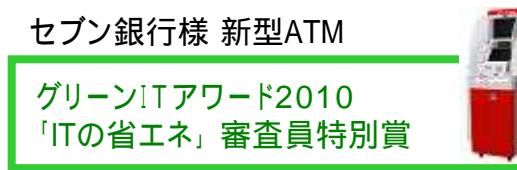
企業 / 官公庁向けに、広い用途に応える製品を提供

- PCサーバ、大型機(UNIXサーバ、メインフレーム、スパコン)、ストレージ、ATM、POS
- 自社製品 / OEM製品組み合せた最適なプラットフォーム提供



メインフレーム / スパコンで培った高信頼、高性能技術をコアとして活用 → 共通技術化

- **エコ** : 自動省電力モード、ハイブリッド電源
- **保守性** : 障害時の早期解析
- **信頼性** : 高信頼性機能を独自チップセットで実現



事業内容 – ITプラットフォーム事業 (ITソフトウェア製品)

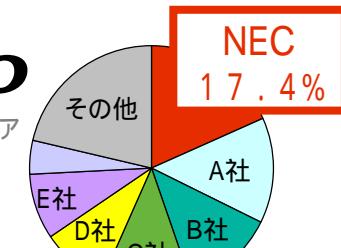
OMCS基盤となるミドルウェア製品を提供

- 運用管理、アプリケーションサーバ、セキュリティ、OS、データベース等

CLUSTER PRO

高可用性ソフトウェアAPACシェア
(金額)2009年実績

APACシェア1位
(国内9年連続1位)



(出典: IDC Asia/Pacific, 2010年「Asia/Pacific (Excluding Japan) Availability and Clustering Software 2010-2014 Forecast」(AP2670310S))

APAC:アジア太平洋地域

自社製品とデファクトのOEM製品を組合せ、 オープンで信頼性の高いシステム基盤を実現

● **自社製品:**

お客様ニーズに必要な機能は自社製品で提供

● **OEM製品:**

OS、DB等デファクト製品をOEM提供

- 自社製品と同等の充実したサポートで、システムの信頼性をトータルに支援
- 主要大手ベンダとの長期に亘るアライアンス
 - Oracle、hp、Microsoft、VMware、等

WebSAM

統合運用管理



Interop Tokyo 2010
「Best of Show Award」
People's Choice部門グランプリ受賞

WebOTX

アプリケーション
サーバ

WebSAM

統合運用管理



日経コンピュータ
第15回顧客満足度調査 No.1

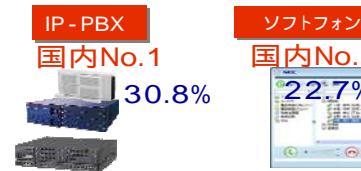
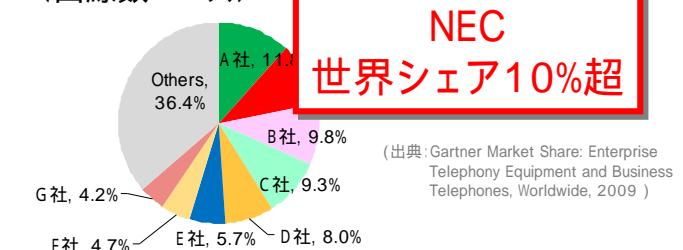
事業内容 – ネットワーク事業

企業 / 官公庁向けネットワーク製品を提供

- 音声ネットワーク機器(コミュニケーションサーバ)、WAN/無線アクセス装置、LAN製品、コミュニケーションソフト
- 自社製品/OEM製品組み合せた最適なソリューション提供

企業内テレフォニー世界シェア

(回線数ベース)



(出典:富士キメラ総研:2008年)

UNIVERGEブランドでグローバルに事業展開

- 約3,500社の販売網を通じ、グローバル5極体制で販売
- 地域・業種ニーズに適合したシステム商品を開発 / 提供

ホテル



- ・グローバルホテルチェーン
- ・ラスベガスにてシェア50%以上

病院



- ・米欧豪中心に世界で1,200以上の病院施設での実績

UNIVERGE

グローバル販売網 約3,500社

EMEA

9位

中華圏

1位

日本

1位

北米

4位

中南米

7位

企業テレフォニーシェア

(出典:Gartner Market Share: Enterprise Telephony Equipment and Business Telephones, Worldwide, 2009)

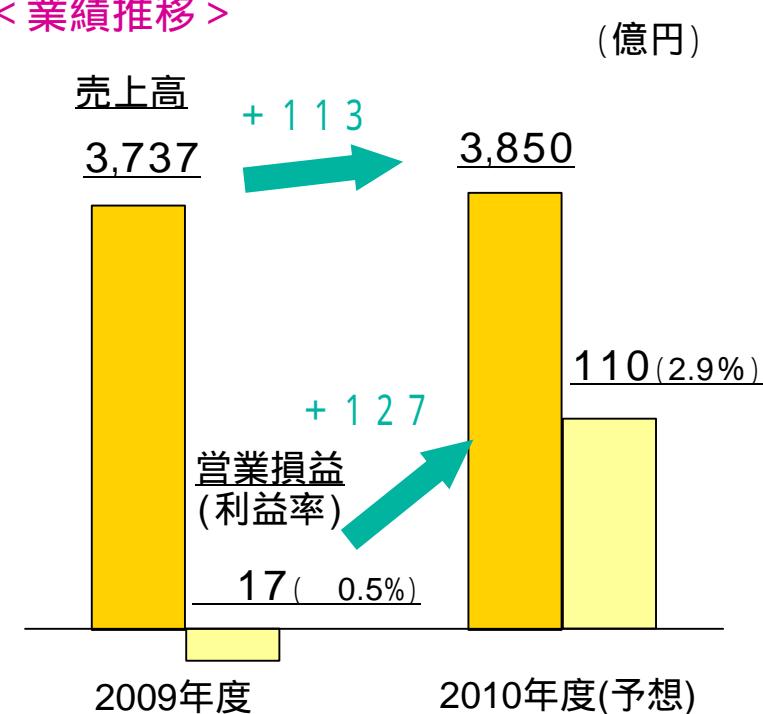
EMEA:欧州中東アフリカ地域

プラットフォーム事業状況

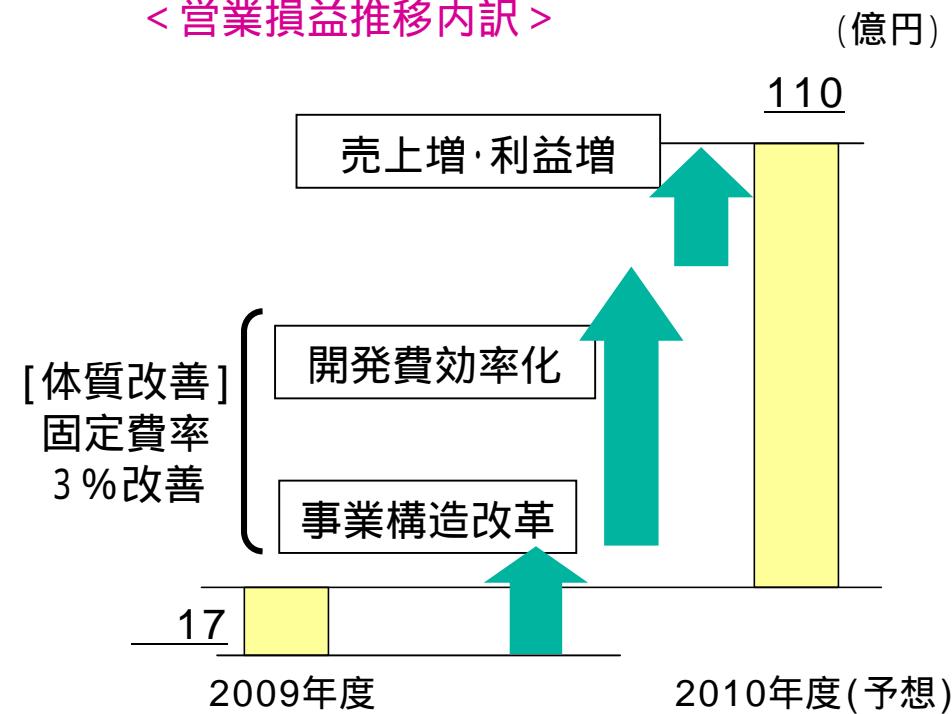
■ 売上高：サーバ統合による仮想化の進展により、增收を見込む

■ 営業利益：ハードウェアを中心に低価格化傾向はあるも、費用改善効果および売上増により増益の見込み

<業績推移>



<営業損益推移内訳>

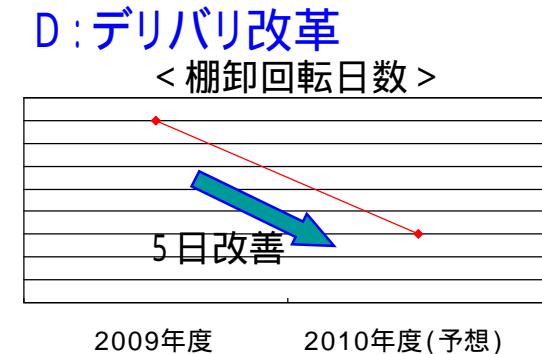
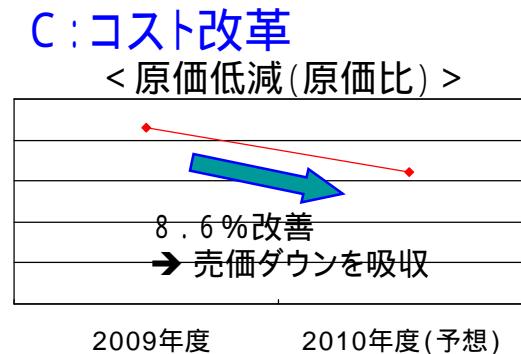
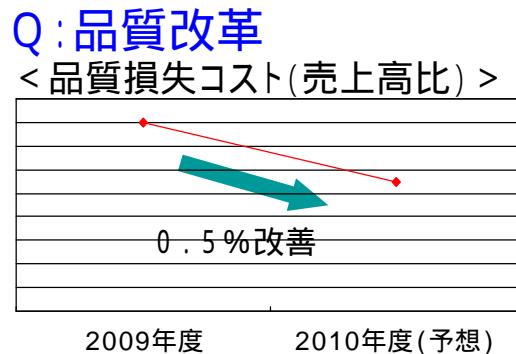


予想値は、2011年2月9日現在

体質改善への取組み(2009 2010年度)

事業構造改革

- (旧)ITプラットフォームビジネスユニットと(旧)企業ネットワークソリューション事業本部の事業統合、組織再編による効率化
- トータルプロセス改革による事業体質強化
(企画・開発設計段階からのQCD改革)



開発費効率化

- ポートフォリオ見直し(重点事業への集中)
- 共通開発による効率化(ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク)

予想値は、2011年2月9日現在

■ 1. NECプラットフォーム事業概要

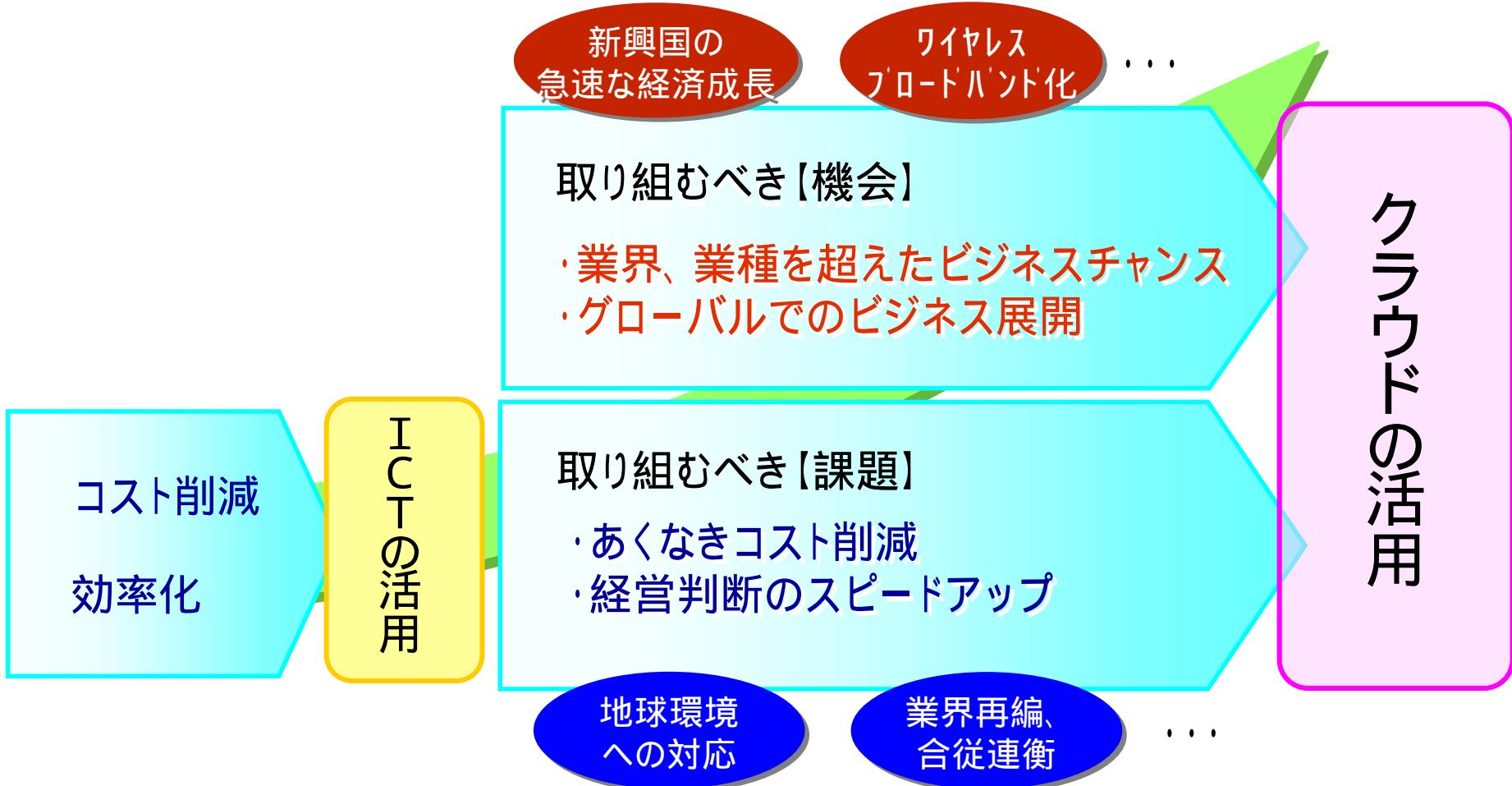
■ 2. 市場動向と事業機会

■ 3. プラットフォーム事業成長戦略

■ 4. V2012達成に向けて

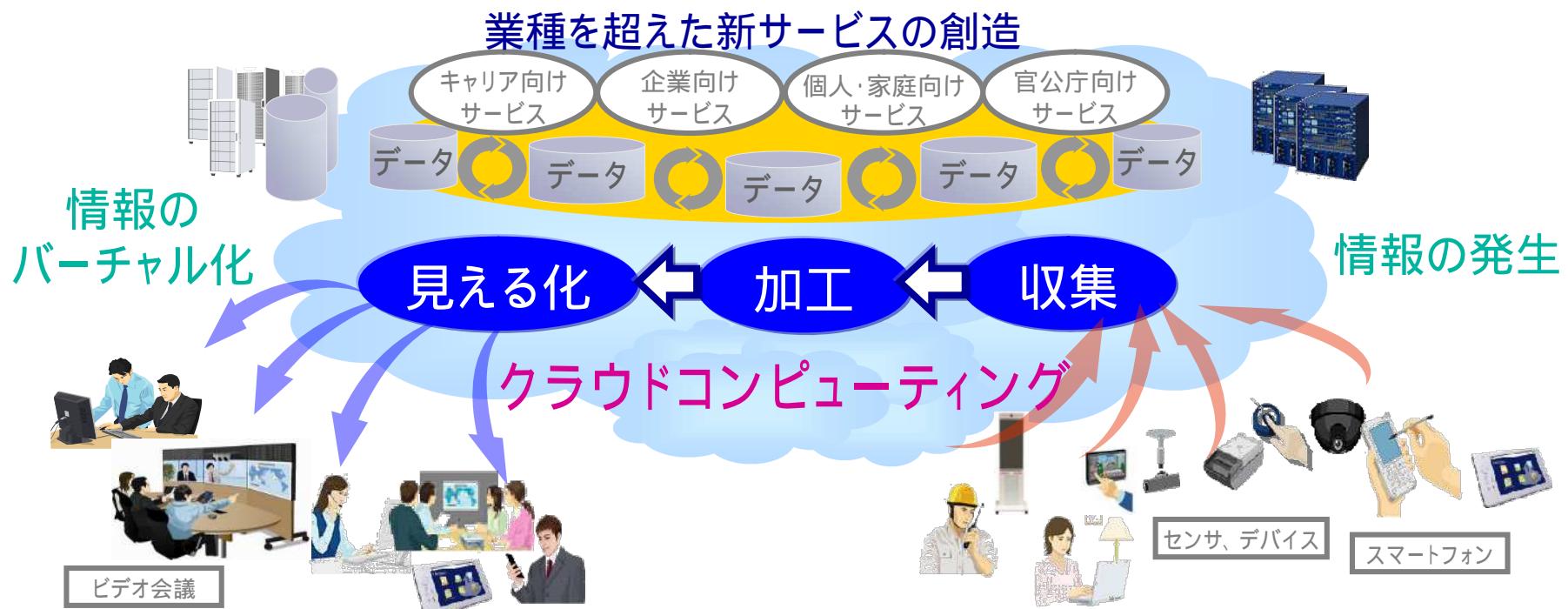
企業を取り巻く市場環境の変化

加速する環境変化に対応するため、ICTの活用からクラウドの活用へ
クラウドを活用した新たな事業をグローバルで展開



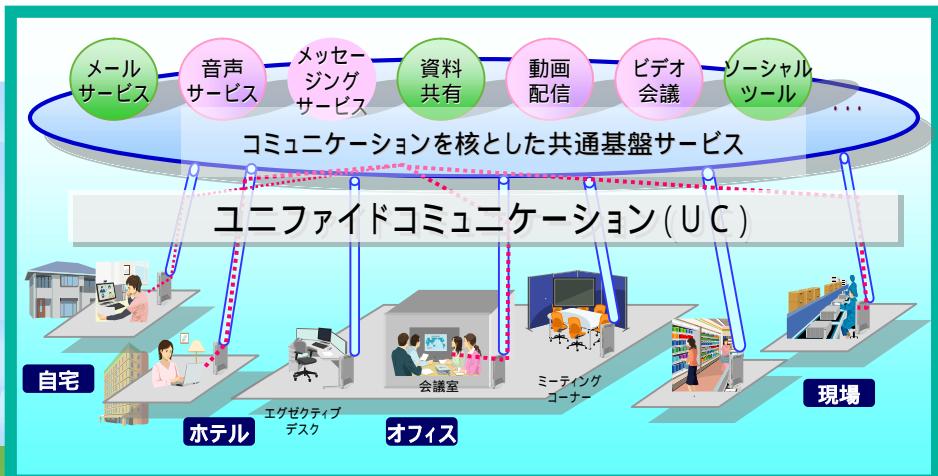
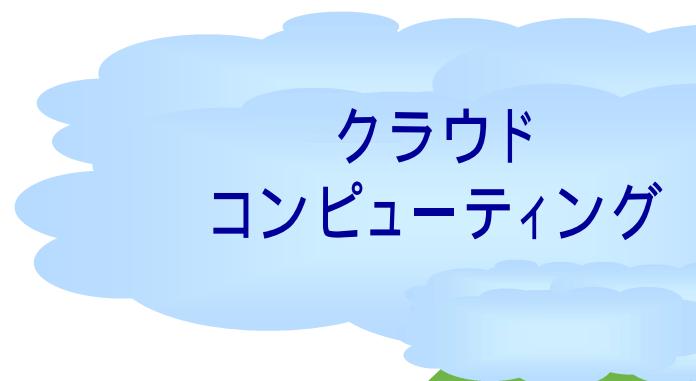
クラウドにより高まるプラットフォームの役割

- あらゆる情報が電子化され クラウドで処理するデータ量が爆発的に増大
- 情報の「収集」、「加工」、「見える化」に対するニーズは飛躍的に増加
- 業種を超えて、分析・関連付けされたデータ活用により、
新たなサービスを創造



プラットフォーム事業の強みと今後の方向

ITとネットワークの技術・ノウハウを蓄積し、IT / NW融合によるクラウドコンピューティング、ユニファイドコミュニケーションを実現



Express⁵⁸⁰⁰

国内14年連続
シェア1位

REAL IT PLATFORM G2

Web化

ダウンサイジング化

メインフレーム
【IT】

UNIVERGE

IP化

デジタル化

音声

映像
【ネットワーク】

「REAL IT PLATFORM G2」はクラウド・コンピューティングを支える次世代IT基盤のコンセプト

オフィス業務基盤

企業内テレフォニー

世界シェア10%
国内シェア1位

■ 1. NECプラットフォーム事業概要

■ 2. 市場動向と事業機会

■ 3. プラットフォーム事業成長戦略

■ 4. V2012達成に向けて

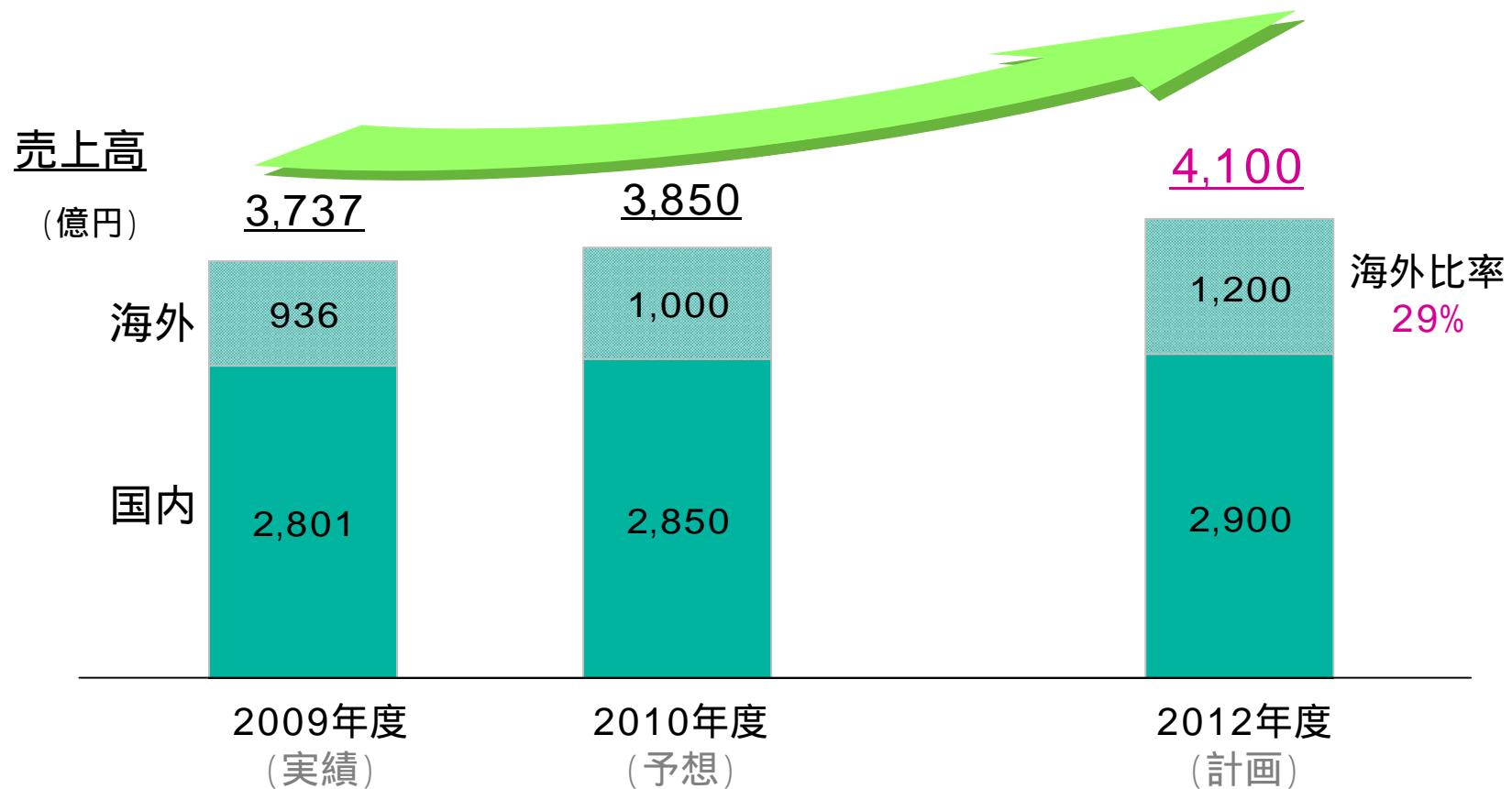
プラットフォームの事業ビジョン

人と地球にやさしい情報社会を実現する
ICTプラットフォームのグローバルプロバイダ



プラットフォーム事業 中期計画(V2012)

- 2009年度をボトムにトップラインを拡大
- V2012の先の将来成長を視野に、
目標経営スコア(売上高4100億円、海外比率29%)を目指す



グローバルを見据えた新たなプラットフォーム展開

現状の事業

IT プラットフォーム
・国内中心

ネットワーク
・個別のネットワーク機器
・先進国中心

ものづくり
Made in Japan品質

今後の展開方針

プラットフォーム事業の基盤として
サーバ事業をグローバルへ展開
⇒ ボリューム拡大による価格競争力アップ

クラウド指向サービスプラットフォーム
の基盤として整備拡充
⇒ C&Cクラウドとしてグローバルに拡大

ユニファイドコミュニケーションの
トータルソリューションプロバイダーへ

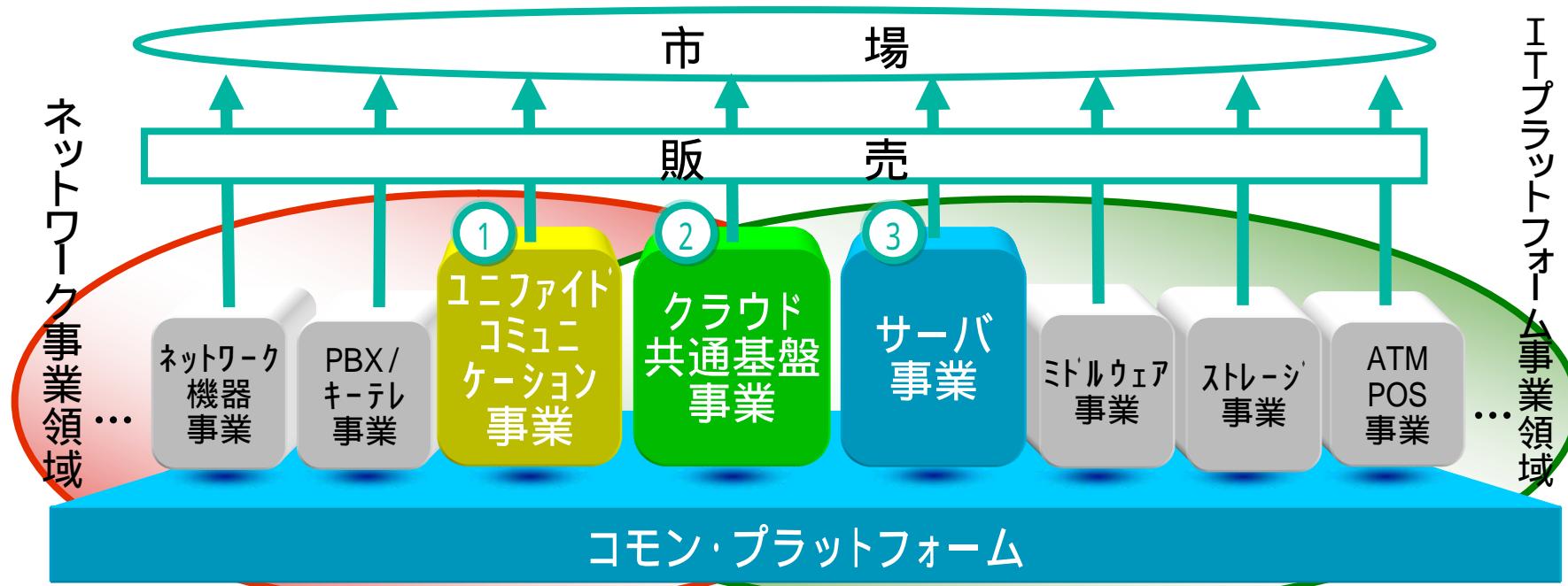
日本品質をグローバルへ
サーバをベースにハードウェア競争力を強化

プラットフォーム事業領域と重点事業領域

実績・強みと新たな技術をIT/NW融合領域へ展開し、3領域で拡大

- ユニファイトコミュニケーション事業：IT/NW融合のオフィス業務基盤製品
- クラウド共通基盤事業：クラウドサービスを支えるプラットフォーム製品
- サーバ事業：エコ、環境性能に優れたサーバ製品

各種IT/NW製品のHWをサーバベースの「コモン・プラットフォーム」で共通化

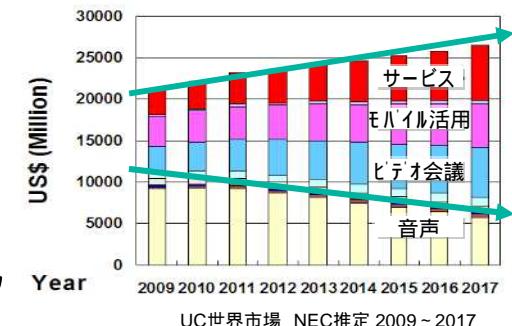


ユニファイドコミュニケーション事業

- オフィス環境は、音声とデータが融合した新たなコラボレーションツールにシフト
- クラウドサービスと既存オフィスソリューションの組み合わせで企業内／企業間コラボレーション活性化

ワークスタイル革新コンセプト

C & C オフィス → 必要なときに、いつでも、グローバルに



ユニファイドコミュニケーション事業

IT/NW融合、グローバル販売網の強みを活かした事業拡大

商品力の強化

- C&Cオフィスのクラウドサービス化
 - ・ 「UNIVERGE Live」(2010/9発表)
- 新デバイス(スマートフォンなど)活用
- 新興国、中小市場でのIP化、UC化を推進する戦略製品の投入
 - ・ 新興国向け小容量コミュニケーションサーバ「UNIVERGE SL1000」



UNIVERGE SL1000
(2011/1発表)

販売網の強化

- パートナとのサービス事業を拡大
 - ・ パートナアセットを活用したUNIVERGE Live拡大
 - ・ クラウドサービス提供(Swisscomホテルテレフォニー)
- 業種特化ソリューションの展開(ホテル、病院など)
 - ・ 日本・北米中心から、新興国へ

グローバルトッププレーヤを目指してチャレンジ

クラウド共通基盤事業

データ量の爆発と新たなサービス創造に応えるクラウド基盤

→ 「REAL IT PLATFORM G2」に基づき、柔軟、安心、快適を実現



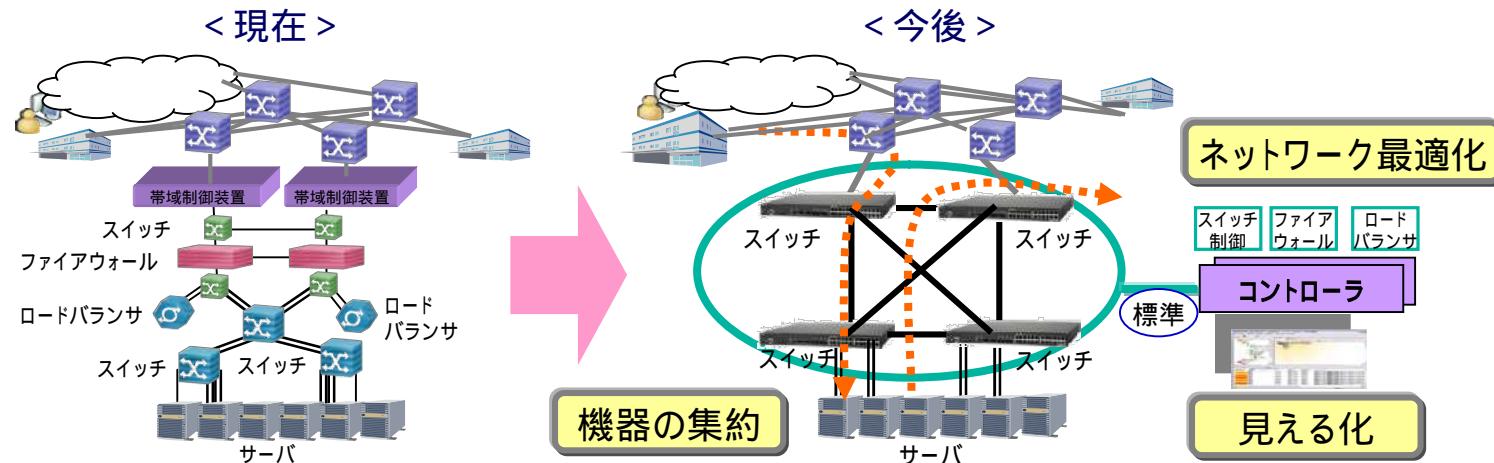
既に展開中のC&Cクラウドを支える共通基盤として展開

- クラウド指向データセンタ基盤の基本機能として提供
- エンタープライズ、キャリア、ソーシャルクラウドの共通基盤として、お客さまに提供

当社C&Cクラウド事業を牽引

新しいネットワーク制御技術「OpenFlow」

- 米スタンフォード大学を中心に提唱しているネットワーク制御技術
- 複雑だったネットワーク管理の考え方を刷新
→ ネットワークの見える化、最適なデータ転送、機器の集約



先行技術、経験と実績を積み、ビジネスでの活用フェーズに

- 当社はいち早く、OpenFlow技術の製品化をコミット
- 国内外での実証評価実績
- まず、データセンタ市場をターゲットとし、近々製品リリース予定

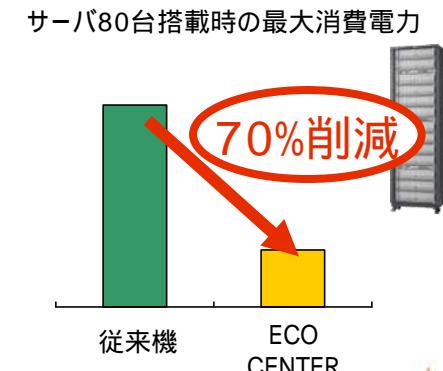
サーバ事業

高いエコ性能と、地域/市場での環境に対応したサーバで差異化

● エコを徹底的に追求したサーバ

- データセンタ向けサーバ実績で培ったエコ製品を更に強化

- ✓ 省電力化に加え、高密度化、軽量化を徹底追求
 - ・ 省電力(共通電源ユニット)
 - ・ 高密度化/軽量化(1ラック最大240サーバ)
- ✓ 独自の省電力技術・冷却技術を駆使した製品投入で他社差異化
 - ・ 冷却技術(高温40℃動作)



● 各種環境に対応したサーバ

- 設置 / 用途範囲を拡大

- ✓ 屋内設置 屋外設置へ拡大
- ✓ 工場/組込用途特化
(耐粉塵/保守容易性/長期供給)



サーバ事業

グローバルなデータセンタ市場への展開

- 実績あるデータセンタ専用モデルに注力
 - 圧倒的な省電力、省スペース
- C & C クラウドのサーバとして展開



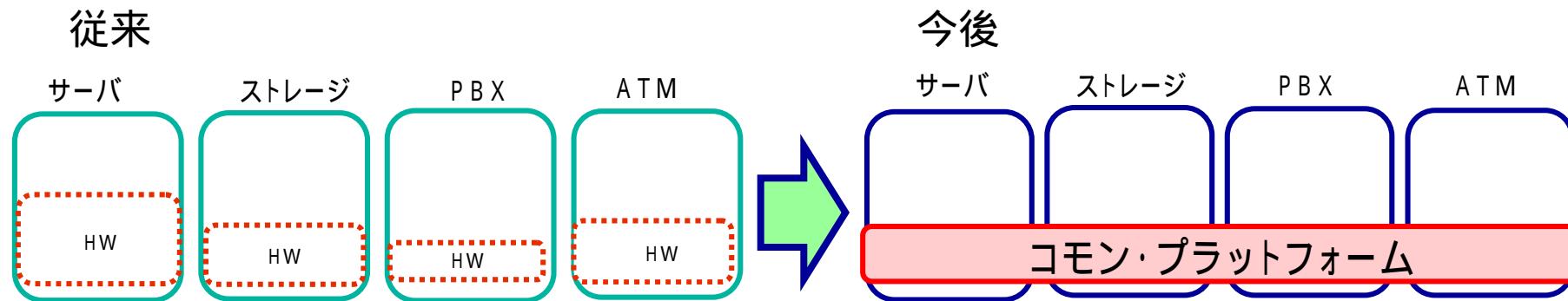
販売チャネル活用で展開

- ネットワーク事業のグローバル販売網にてサーバの販売拡大
- 新興国などの新規チャネルを開拓

国内中心からグローバル・サプライヤへ

<共通施策> コモン・プラットフォームによるHW競争力強化

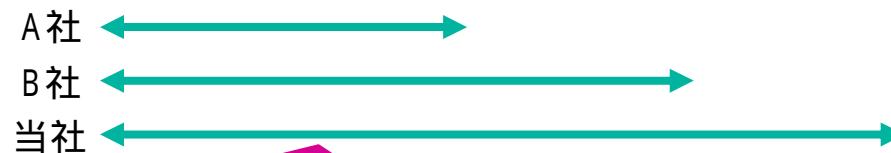
専用設計されている各種製品のハードウェアをサーバベースに共通化
→ お客様に最新技術をいち早く、低コストで提供



<メリット>

- 最新技術(エコ、仮想化、高信頼性、高性能など)の早期の搭載
- 共通部分をベースとし、専用装置を低コストで実現
- 開発 / 生産 / 保守コストの削減

【各社のハードウェア共通化が可能な範囲】

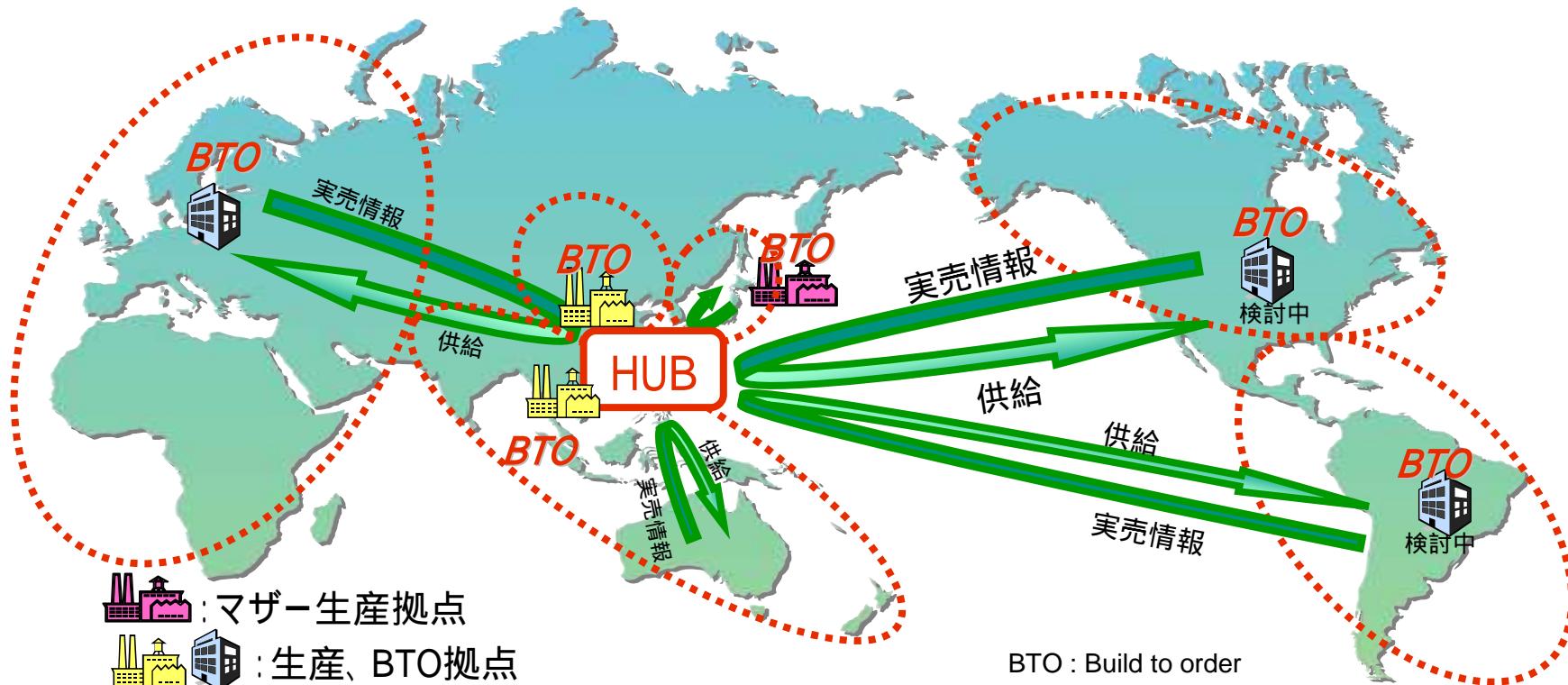


サーバからストレージ、ネットワークに加え、各種複合機器まで、コモン・プラットフォームでハードウェアを強化できるのは当社のみ

<共通施策> グローバルSCM強化計画

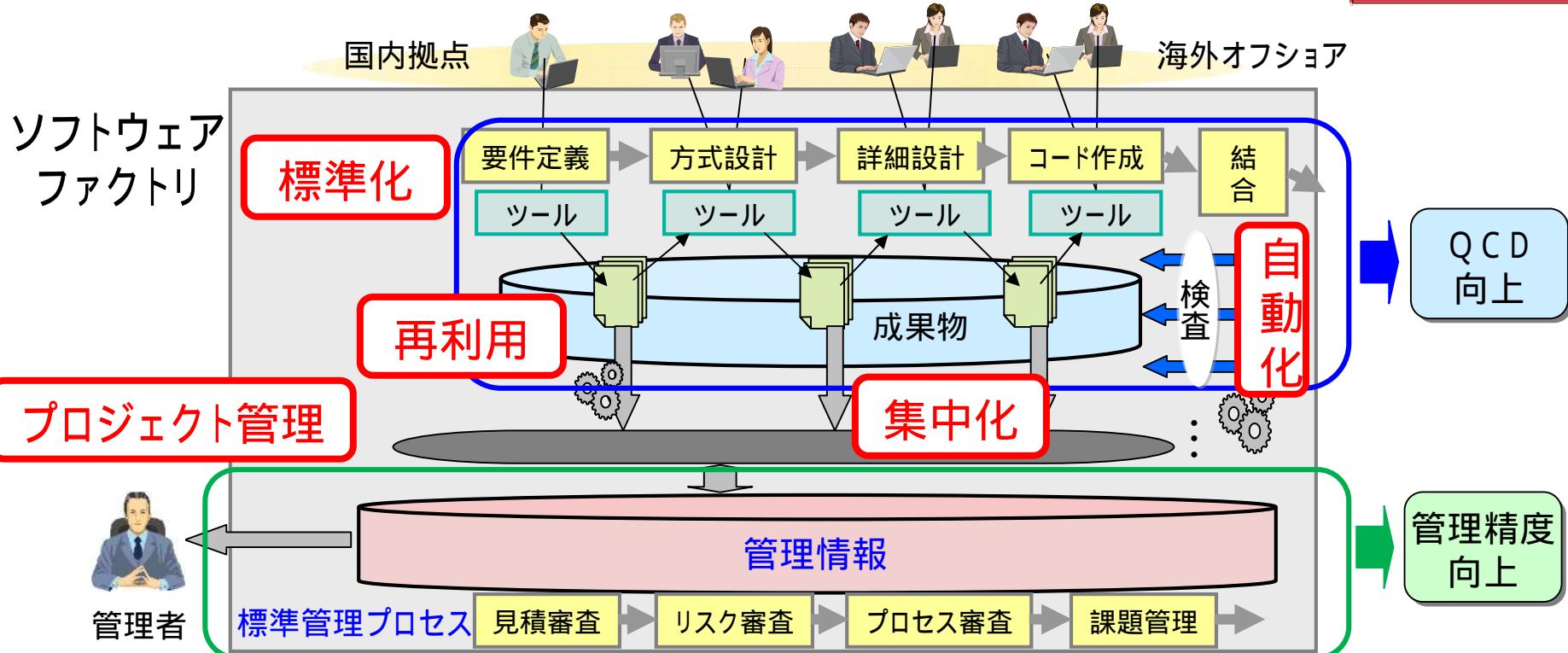
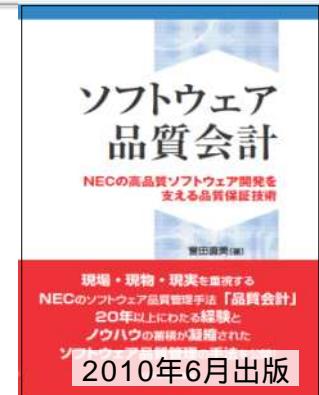
グローバル5極 / 日本へ向けて、タイムリーに安定供給

- 現地での実売情報をHUBに集約し、在庫を適正管理
- 消費地での組み立て生産によるフレキシビリティの実現



<共通施策> ソフトウェア生産性向上計画

- 20年以上に亘って培った高品質ソフトウェア開発手法を統一 / 標準化
- 海外オフショアを含め、全てのソフトウェア開発において、高品質 / 高生産性を実現するソフトウェアファクトリを開発



■ 1. NECプラットフォーム事業概要

■ 2. 市場動向と事業機会

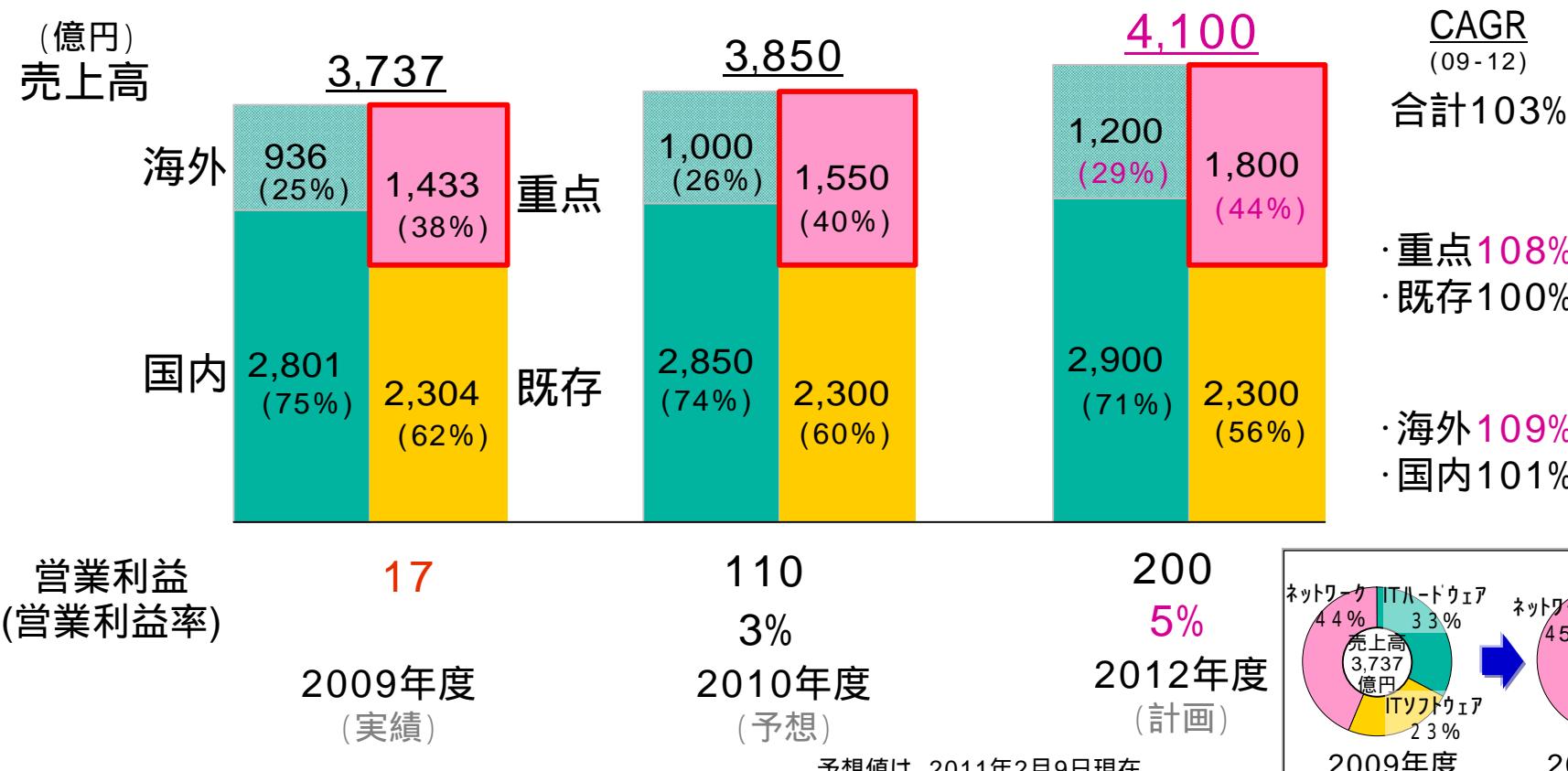
■ 3. プラットフォーム事業成長戦略

■ 4. V2012達成に向けて

売上高計画

2012年度売上高4,100億(営業利益率5%)を実現

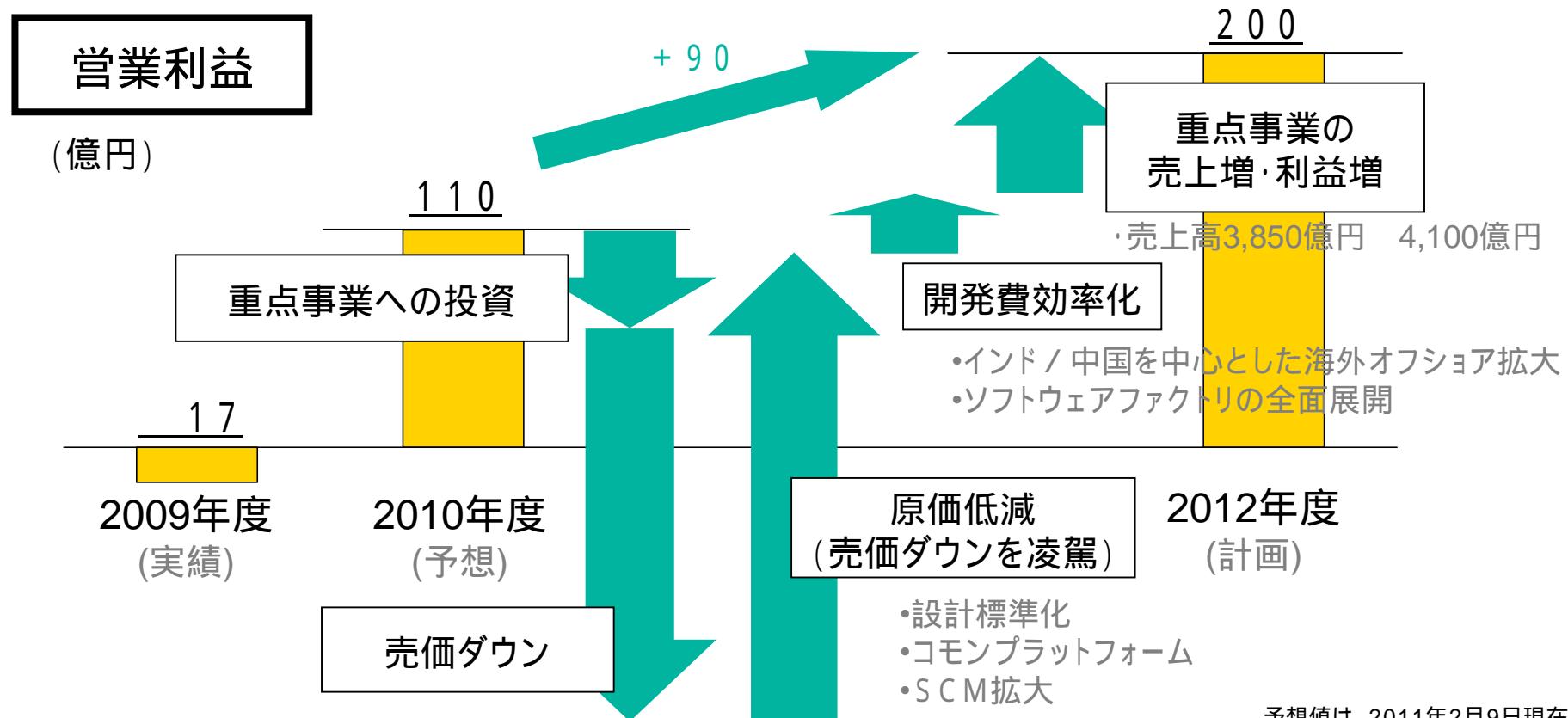
- 重点事業は108%成長、既存を含む全体では103%成長
 - 海外売上は109%成長(936億円 1,200億円)



収益性向上への取組み(～2012年度)

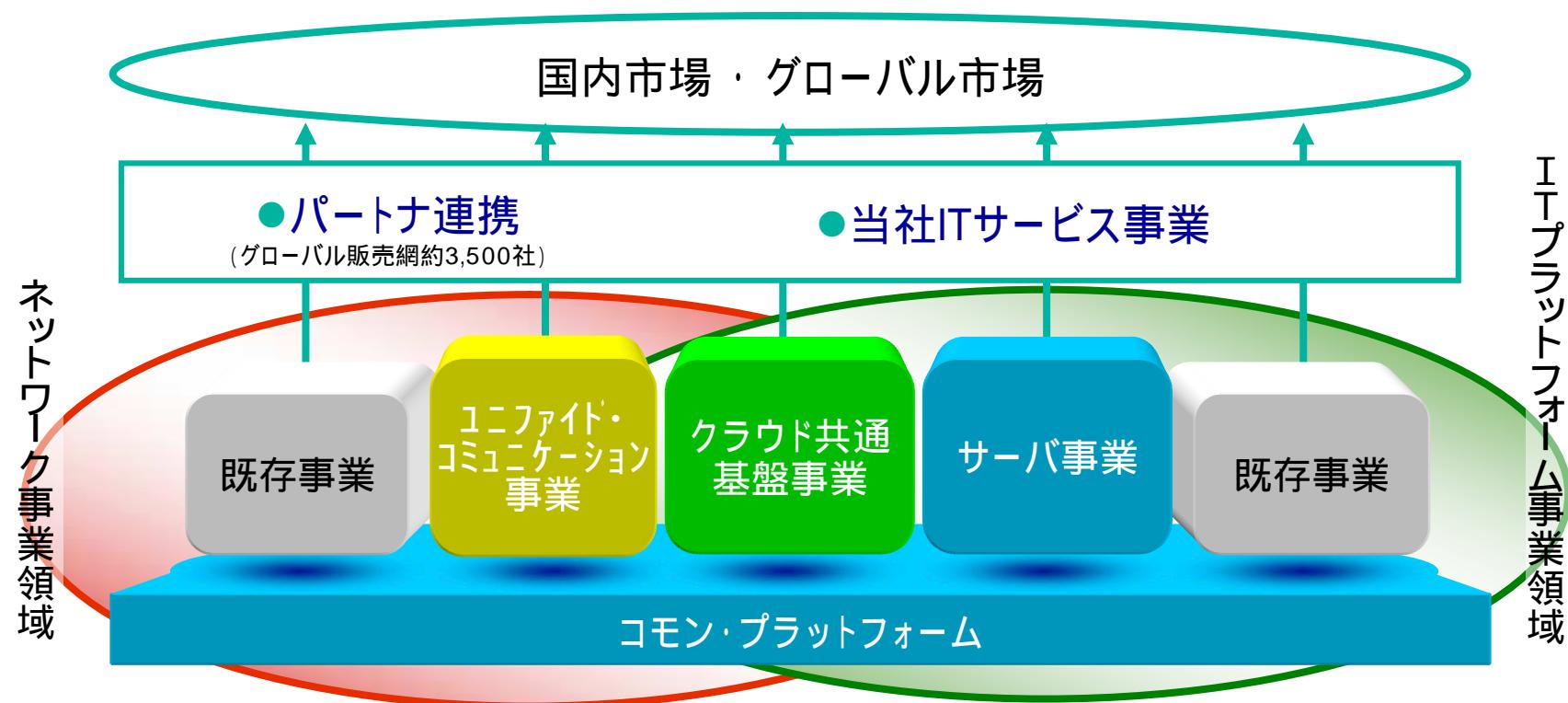
共通化／海外活用による原価低減拡大

重点事業への投資集中と効率化促進



V2012達成に向けて

- V2012達成に向けて、着実に利益を生み出す事業構造へ
- IT/NWで培ったアセットの最大活用によりグローバル拡大へ



Empowered by Innovation

NEC

略語

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| · ATM | : Automated Teller Machine | · POS | : Point of sale system |
| · BTO | : Build to Order | · PSA | : Parallel Stream Architecture |
| · C&C | : Computer & Communication | · QCD | : Quality, Cost, Delivery |
| · C/S | : Client - Server | · RAID | : Redundant Array of Independent
(Inexpensive) Disks |
| · DAS | : Direct Attached Storage | · SaaS | : Software as a Service |
| · DB | : Database | · SAN | : Storage Area Network |
| · HW | : Hardware | · SCM | : Supply Chain Management |
| · ICT | : Information and Communications Technology | · SI | : System Integration |
| · LAN | : Local Area Network | · SL | : Solution |
| · MFA | : Mainframe Alternative | · SW | : Software |
| · NW | : Network | · UC | : Unified Communications |
| · OEM | : Original Equipment Manufacturing | · VoIP | : Voice over IP |
| · OLTP | : Online Transaction Processing | · VPCC | : VirtualPCCenter |
| · OMCS | : Open Mission Critical System | · VPN | : Virtual Private Network |
| · PBX | : Private Branch eXchange | · WAN | : Wide Area Network |
| · PF | : Platform | | |

記載されている会社名、製品名、サービス名などは該当する各社の商標または登録商標です。

< 将来予想に関する注意 >

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承願います。実際の結果に影響を与える要因には、(1)NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2)市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4)NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5)NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6)市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7)為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8)NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9)NECに対する規制当局による措置や法的手続きによる影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は隨時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

(注)

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。

年度表記について、2008年度は2009年3月期、2009年度は2010年3月期（以下同様）を表しています。